

日本語学習者は 日本語ボランティア活動を どう見ているか

韓国、中国、マレーシアの3人から
寄せて貰いました。

ボランティア日本語教室は日本語のみならず、日本の優秀な文化を伝達する伝道師のような役割をしていた。このような意味で、多文化共同体を形成していく一番重要な役割をしていたといえる。日本にはじめて来た時、言葉も文化も見慣れない外国人にとって、日本語教室はただ日本語を学ぶ場所だけではなく、日本の文化と日本人の暖かい心意気を感じる“安らかに休む場所”になる。特に、何の報償ももらわなく、こんな役割を担当しているボランティアの活動をみていると、日本の方々の余裕のある心と暖かい心を感じられる。

朴 潤龍 (Park Yun Yong)

金 慶南 (Kim Kyung Nam) / 韓国 (練馬区)

毎週の授業、細かいところまで、一つずつ考えて、私に対して一番適切な方法を使って、私が納得するまで、根気よく教えていただいた。主人の支援者は世話好きな人で、我々を連れて、桜を見に行ったり、美術館に行ったり、一緒に食事をしたり、すごく楽しい思い出を作ってくれた。唯、学習者の間では余り交流機会がなくて、何年間通っても名前を知らない人が大勢いるのが残念です。

高 亦然 (コウ エキゼン) / 中国 (町田市)

1年前に娘が幼稚園に入った時、私は日本語を上手に話したい事と日本語能力試験を受けるために「八王子にほんごの会」に入会しました。先生の応援と指導で2級に合格しました。先生は責任感が強く、質問にはきちんと答えてくれました。仕事で来られない時は、他の日に変わってくれました。すごく感謝しています。他

の先生達も優しく、自分の生徒じゃなくてもいろいろ教えてくださいます。勉強以外のこと...日本の文化や料理や日常生活のことも教えてもらいました。教室は勉強する場所ですが、学習者間の交流の機会もあつたらいいなあと思います。

小俣 珊瑚 (オマタ・サンサン)

/ マレーシア (八王子市)

学習者は日本語学習支援に何を望むか、感想を寄せて貰いました。

- ・日本語の文法と注意点を整理してくれるので専門の日本語学校より便利です。
 - ・敬語と接続詞の使い方を勉強したいです。
 - ・学習の時間を長く、頻度を多くして。
 - ・スタッフが優しく親切です。ていねいに教えてくれます。
 - ・学習の内容が多すぎるので、資料等を準備して要点やテーマをわかり易く絞って。
 - ・日本の生活や文化が理解できるようになった。
 - ・パーティー、お花見等を通して日本人らしい生活を知りたい。見学、日帰り旅行等日本人と一緒に遊びたいです。
- (江戸川区)

「日本語をどのように教えてほしいか」には、“今の形でよい”が殆んど。他には、“間違いを遠慮なくすぐ直してほしい”の意見も。「何か望むことは」では“日本文化を紹介してほしい、歌舞伎や相撲を見たい、花見やハイキング、小旅行に行きたい、名所に行きたい”などの希望が。支援者への配慮からか苦情等は出てきませんでした。

(小平市)

「日本語が少しでも早く上手になり
多くの日本人と会話がしたい」こ
んな希望を持って日本語教室で熱心
に学ぶ学習者に聞いてみました。

「移動する子どもたち」への 日本語指導で大切なことは何か

寄稿

早稲田大学大学院日本語教育研究科

川上 郁雄



子どもの課題か、社会の課題か

現在、「日本語を第二言語として学ぶ子ども」（JSLの子ども）が全国的に増えています。それらの子どもたちは、複数の地域や国の境を越え、また、複数の言葉を使い分けながら生活している子どもたちです。このように空間の「移動」や、言語間の「移動」も含めて、私は、これらの子どもたちを「移動する子どもたち」と呼んでいます。

しかし、彼らが望んで移動している例は少なく、むしろ「移動せざるをえない子どもたち」と言えます。その特徴は、「移動」にともなって、教育内容や学習環境が分断され、その結果、ことばの発達も分断される点にあります。したがって、多言語環境に育つ子どもたちの「ことばの力」をどう育成するかは、子どもの課題ではなく、社会の課題なのです。

子どもたちの日本語能力を 把握することがなぜ重要か

これらの「移動する子どもたち」への「ことばの教育」で最も重要なのは、ことばの発達、つまり、母語と日本語の発達を十分に把握することだと思います。ただし、多くの指導者が母語ではなく、日本語で指導や支援を行っている現状から見れば、少なくとも、子どもの日本語能力の把握をすることが大切になります。なぜなら、日本語能力の把握から、指導方法や指導内容を検討し、さらにどのような手立てや足場がけ（スキヤフォールディング）が必要かを考えながら授業設計を行うことが重要だからです。

では、日本語能力の把握をするために、どうすればいいのでしょうか。日本語能力は、ひらがなやカタカナ、漢字をどれくらい知っているかという言語

知識の量だけを言うのではなく、むしろ、「ことばでやりとりをする力」を言います。そのためには、テストをするのではなく、子どもが日本語を使って他者とどのようなやりとりをしているかを観察することが必要となります。たとえば、「黙っている」「一語文をいう」「二語文、三語文から徐々に自分のことばで話したす」「簡単な質問はわかるが、話がブツブツ切れる」「よくしゃべるが、教科内容がよく理解できない」「語彙が増えているが、深い内容が話せない」「順序だてて説明すれば、複雑な考えが理解できる」などの様子から、その子どもの日本語能力の発達を把握します。そして、どのような補助をすれば、何ができるのかを把握します。

「JSLバンドスケール」の試み

JSLの子ども様子から日本語能力を把握する「ものさし」JSLバンドスケールを、私の研究室では5年前から開発しています。この5年間の実践研究から、JSLの子どもに指導を行う複数のボランティアが、この「ものさし」を使って子どもの日本語能力を協働的に把握し、共に指導法を検討することの重要性がわかりました。日本語能力の発達段階を共に把握し、どのような手立てや足場がけをすると何ができるかを共に考えることが、指導者同士の連携を強めます。また、「ことばの力」への共通理解は、ボランティアと学校、行政との連携も生み出します。「支援」とは「JSLの子どものことばの力に対する、複数の視点から共通理解を得るために行う相互の働きかけ」であり、その関係性が「連携」であると思います。つまり「支援」も「連携」も、「ことばの力」の理解から始まるのです。

学習支援に絵本を つかってみませんか

にほんごの会くれよん(目黒区) 石原 弘子

くれよんHP: <http://home.h08.itscom.net/crayons/index.htm>
メールアドレス: crayonsnihongo@yahoo.co.jp

いろいろな国の人が、 自分の国の言葉で、 本読みボランティアを

「おおきなかぶ」を日本語とポルトガル語、イタリア語で。「ぞうくんのさんぼ」を日本語と韓国語、中国語で。「かばくん」を日本語とタイ語、インドネシア語で。「おっぱい」を日本語とマンマー語、タガログ語で。「おおきくおおきくおおきなあれ」を日本語とロシア語、英語で。これは、今年が目黒区国際交流協会主催の国際交流フェスティバルで、市販絵本を各国語に翻訳して、読み聞かせをしたときの言葉です。

にほんごの会くれよんには、いろいろな国のお母さんが参加しています。彼女たちの子どもたちが幼稚園や保育園で読んでもらう絵本を、自分も読んでみたい、自分の国の言葉にして、子どもに読んで聞かせたいと、市販の絵本を翻訳して発表するということをしています。日本語の上手な人もそうでない人もいます



が、絵本もいろいろあります。あいさつの絵本からストーリーのあるものまで。絵本の内容が理解できれば、日本語のレベルは関係ありません。絵本に関心のある人、育児中の人などにお勧めの方法です。

どのようにしているか

日本語の絵本をその人の言葉に翻訳する、その人の国の絵本を日本語にする、日本の絵本の翻訳本を日本語に、の3通りあります。は、公開する場合は、著作物使用許可が必要なので、出版社に連絡をします。許可申請のフォーマットは、<http://www.jbpa.or.jp/ohanasikai-tebiki4k.pdf>からダウンロードできます。は日本語学習に使うことは出来ませんが、公開はできません。訳されたものは、上記フェスティバルや目黒区内の2つの図書館のお話会で読んでもらっています。聞く人はほとんど全員日本人ですが、とてもよく聞いてくれます。音の響きの違いがおもしろく、中にはすぐにリピートする子どももいて、

読み手を勇気付けてくれます。その言語が母語の子どもなど、ほんとうにうれしそうです。

訳された文章が原文の意味を伝えているかどうかは、私たちには分かりません。意味を確認しあって、完成させるのですが、これが、

非常に良い日本語学習になっています。

効果

日本語学習に絵本を使っている人に聞くと、他の人の前で自分の言葉をお話すると、気持ちがよく、自信がつく。練習を聞いていた子どもが、日本語以外の言葉に関心を持つようになった。お母さんが母語も話すようになった。絵本のお話は日常生活の言葉が多いので、日本語のニュアンスを理解できるようになった。日本語の読みが上手になった。

図書館が身近になったという声があがりました。

学習支援の場に絵本を

多くの図書館で長期間、多数の本を貸してくれる団体貸し出しの制度があります。1回50冊くらいを数ヶ月間借りて、学習の場に並べておくと、読みたい本、訳をしたい本に出会うことができます。多くの地域で、絵本の多言語読み聞かせが、学校や幼稚園、保育所、図書館、児童館などで行われるようになると、図書館も出版社も、在住外国人の子どもの読書環境を考えるようになるでしょう。この企画は、昨年、文化庁の地域日本語教育振興事業に応募して実現しました。その結果、日本語ボランティア教室は、外国人が地域で活躍できるように応援することが大きな役割であると気づきました。あなたの地域でもやってみては、いかがでしょう。

日本語ボランティアは日本語を母語としない子どもたちのために何ができるか

ボランティアは学校とどのように連携できるのか？

先生方は日本語を母語としない子どもたちとどのように係わっているか。

(6月24日・於：しんじゅく多文化共生プラザ)



春日井 章子先生

(墨田区立錦糸小学校副校長)

葛西小学校の日本語学級で中国残留孤児2世の子どもたちを指導。荒川区へ転任し普通クラスを受け持つ。日本語学級担任の立場と普通のクラス担任の立場の両方を経験。

「旅行で来たと思ってたら、ここに住むことになって...」

子どもは自分の意思で日本に来たわけではない。親は「日本へ行ってしまえば子どもはなんとかなる」と思っている。子どもたちは心の準備期間も与えられないまま、日本の学校に入り、言葉も何もわからない。家庭内暴力、登校拒否になることもある。

日本語支援は本当に充実しているか
子どもは1年ぐらい経つと先生の言っていることはわかるし、受け答えもできるようになるので、もう大丈夫と思われてしまうが、日本人と同じように教科学習ができるようになるには3～5年かかると言われる。また、日本に来た経緯について納得しない部分があれば日本語を勉強する意欲が生まれにくい。

みんな一緒に、みんな同じということが非常に求められる文化

プールとか学級対抗の球技大会とか合唱とか、皆に協力しないとハジかれてしまうから、外国から来た子は歌えなくても、口パクで合わせる。これが日本の学

校システム。

「郷に入れば郷に従え」？ 国際理解教育

それぞれが持つ固有の文化を大事にし、認めていくことが大切。日本語がわからないからといって、何もできない子ではない。外国から来た子も日本の子と同じ良いものをいっぱい持っていることを知らせるための国際理解教育が必要。外国の子どもたちが学校の中で生き生きと、



小川 郁子先生

(江戸川区立葛西中学校日本語学級担当)

日本語教育専門。練馬区教育委員会派遣の講師として10年間日本語指導。日本語学級担当の教師を目指し、教員採用試験を受け社会科教師になる。

日本語学級で何がどこまでできるか～葛西中の模索～日本語学級が同じ環境の生徒の「集まる場」になることの意味は大きい。

指導体制...2学級、教員3名(日本語学級担当教員は東京都から配置されるが、日本語指導経験の有無は問わず、6年で異動する。何をするかは教員任せ。)

日本の子どもたちと対等にやっていくため、日本語学級の担当者がアピールしていかないと。

日本語学級は子どもを支える

日本語だけでなく、日本の中でどう生きていけるか、子どもたちの中にある生きる力を引き出す。そうでなければ高校受験に立ち向かっていく意欲をつけていくことも難しい。

ボランティアの方に

学校と家庭、子どものパイプ役になってもらいたい。外国の子を「待ってあげて」「許してあげて」「逃げ道を残しておいて」ほしい。また、外国から来た子には、「そのままでもいいんだよ」「自分の育った国のプライドを捨てないで日本で生活して」と伝えてほしい。

無償ボランティアの日本語教育専攻大学院生3名。生徒は随時入ってくる(21名以上41名未満)

通級方式...地元の学校に入学して日本

語指導のときだけ葛西中に来る。通級に1時間以上かかってしまう生徒もいる。

取り出し指導...在籍学級の時間割が国語と社会の時間、通級生は週3回、1回2時間（どちらも週6時間）に日本語学級に通級する。『みんなの日本語初級。』終了で社会科は通常学級に参加、通級生は週2日、1回2時間に変更。取り出しの中で、在籍学級の進度に合わせ、数・英・理・社も学習する。3年生の取り出しはほとんどしていない。



教科書...『みんなの日本語初級・』を中心に、学校生活に必要なところ、自然習得しにくいものを教えている。その後は教科学習をしながら、わからないところを説明する。

母語の保持...生徒の出身国の教科書や参考書、読書用書籍を集めている。母語の本を読みなさいと言っている。

定期考査...日本語に困難のある理科・社会・国語は別室で受験できる。問題用紙の日本語の意味を質問でき、自分で作

成した対訳表を見てもよい。ある程度得点が可能になったら教室に戻る。

補習...会議のない日に放課後補習を行う。長期休暇中も補習を行う宿題支援、小学校算数)。毎週継続的に近くのボラン

ティア宅で決まった教科を学習している。

学校生活への適応支援...遠足の「しおり」を見て、日程や持ち物など、必要な情報を確認する。運動会では、そのクラスが失格になったりしないように、競技のルールを教える。行事の感想文は日本語が不十分な場合は母語で書かせ、翻訳して担任に伝える。

保健・就学援助関係書類...ボランティアの協力で母語翻訳のものを作って渡す。

進路指導...三者面談では、保護者のために通訳を手配することもある。日本語学級教員も同席。3年生は選択授業で進路学習をする。ほとんどの外国人の親が「パート」で働いているため、「正社員」になることが高校に行く動機にもなる。

日本語学級だより...職員室の先生たちに子どもたちの頑張っている様子を知らせる。

PROJECT 1

日本語交流クラブで、ボランティア活動をはじめて3年近くになる。この間、一、二回顔を合わせただけの人まで含めると11カ国、15人の学習者と触れ合うことができた。

年齢も背景も様々な学習者達との授業では、時に、思いがけない展開になる事例もある。漢字を読む力をもっとつきたい、という要望で、テキストも決めて肅々とスタートした授業が途中から、専ら株式市場で使われる言葉や表現を学ぶものになってしまった。毎回、日本経済新聞の記事を教材に「先生、ROEって何ですか」等々、企業会計用語や英語も飛び交うレッスンを数ヶ月にわたり続けることになってしまった。でも、学習者の真面目な態度と明るい人柄で、熱のこもった授業を共に楽しむことが出来た。

準備には時間をかけ、A4版の用紙2～

3枚のレッスンプランを用意する。学習事項の理解と定着増進の為、イラストや図解を、教師用マニュアル等を参考に数枚揃える。そんな手作り教材がもうファイル2冊に一杯になった。学習者から手作り教材のコピーを所望される時の気分は格別だ。「してやったり」とほくそえむ。授業を上手く進める事ができて、学習者の表情が、難しい課題を乗り越えた満足感で晴れ晴れとしているように見える時は、こちらも最高に幸せである。

とは言っても、プロの教師ではないボランティアなりの応分の努力は、これからも、続けていかなければと思っている。無理をすることなく、自分にやれる範囲で、学習者と一緒に楽しみながら、日本語教育を通して、地域にささやかな奉仕ができればと思う。

ボランティアの声

山下 大樹
日本語交流クラブ（杉並区）

学習者と共に 楽しみながら



日本語ボランティアの現場から

楽しく、仲良く、オープンに！

LTC友の会・高円寺

代表幹事 田坂 気澄（杉並区）

「お久しぶりです。以前はお世話になりました、ありがとうございました」と、私（4年目）の見知らぬ外国人が教室に訪ねてくる。

旅行、出張、留学などで来日した何年か前の学習者のふいの来室、13年来の中心メンバーの数名の女性の出番となり懐かしそうに話したり、皆に紹介したりする。学習者NO.1000を超えるこの会の歴史を感じる時。時間を割いて訪問してくれる人達との再会、この会のビタミン剤です。

1994年「LTC友の会」の土曜コースとして発足、規約改正により昨年の半ば

からは「LTC高円寺」として外部に団体登録し自主的な会となりました。ボランティアは上記の中心メンバーの他、海外経験者・日本語教育経験者・リタイア組・現役若手など男女約20数名。土曜午後1時15分～4時15分を前半・後半の2クラスに分けてマンツーマンの学習。学習者は留学生や就学生、ITエンジニア、主婦の方など多彩な顔ぶれ、JR高円寺にほど近い杉並四小開放会議室です。

特別メニューは正月行事・スピーチ大会・年一回の近郊ピクニック・バーベキューなど手作り企画で実施しています。V全員のミーティング・悩み相談、談論



風発の勉強会も毎月一回実施。

本会ではふだんの活動や特別メニューもみんな自然体、自主的にそれぞれの役目を果たして行く、そういうフラットでオープンな雰囲気が培われていると自負しています。これまでの多くの方の尽力のお陰です。

一対一で学習者と比較的長い交流となり、心の琴線に触れた時、お互いに成長して行きます。メディアにはない生の異文化交流の刺激と日本語の奥深さ、良き仲間、これからも続けたいと思う理由です。

会員団体紹介

Nice to Meet You

市民総合センターの階段を上がり2階のボランティアセンターの会議室に向かう。水曜日は午前10時から、金曜日は午後7時から。仕事の休みに来る学習者、仕事を終えてから来る学習者。疲れていても頑張ってきてくれる。ボランティアも、大急ぎで家事を片付けてくる人、仕事帰りの人、みんな学習者の喜んでくれる顔が見たくて張り切っている。

学習内容は人によって様々だ。テキストで勉強する人、日本語能力試験の準備をする人、子どもの学校のプリントや職場でつかう言葉など生活に密着した日本語を学ぶ人、



nice to meet you

地域の中で共に暮らし共に学ぶ

武蔵村山日本語の会

代表 馬本 英夫（武蔵村山市）

旅行や趣味などについておしゃべりする人、等々。ひな祭りや七夕などの年間行事や恒例の年末パーティー等を織り交ぜながら楽しい時間を過ごす。

学習中には逆に色々な事を教わることも多い。干支の話ですれば、豚年や猫年もあることを知る。ベトナムの実家では広い庭にたくさんの種類の果物を栽培し

ているという。中国の皮から作る餃子、韓国の自家製キムチ、ペルーの多彩なジャガイモ料理。感心することしきり。

しかし、楽しい事ばかりではない。話の流れで異国に暮らす苦労を涙ながらにしゃべって帰ることもある。職場での人間関係や労働条件、子どもの事、離れて暮らす家族のこと。普段の笑顔の裏に辛い思いを抱えていることもあるのだ。

私たちボランティアは日本語支援をするとともに、異なった文化を持つ学習者たちから多くを学んでいる。外国人と日本人が対等の立場に立って共に地域で暮らしていく、日本語の会はそのお手伝いをしながら、学習者の方たちの心の止まり木になれたらと思っている。



パキスタンの親子

私は一昨年日本人と結婚して去年8月に日本に来ました。

パキスタンは1947年にインドから独立しました。パキスタンの歴史は非常に古く、今から約5000年前、パキスタンの一番南側にインダス文明が栄えました。インダス文明は世界の四大文明の一つで、その時の首都はモヘンジョダロで日本の学校の教科書にもこのことがのっています。

インダス文明の次に栄えたのがガンダーラ文明です。

パキスタンは二つの言葉でできています。純粋な、という意味のパクと、国という意味のスタンが一緒になってできました。インドから独立した時80%以上のイスラム教徒が住んでいる地方がパキスタンになりました。インドの東が東パキスタン、西が西パキスタンと呼ばれました。その後インド・パキスタン戦争で東パキスタンはベンガラデシュになり西パキスタンはそのままパキスタンと呼ばれています。パキスタンの面積は日本の二倍位で人口は1億6000万人位です。

パキスタンはシンドー、パンジャブ、バルチスタン、北西辺境の4つの州に分かれています。話す言葉はシンドー州はシンディ語、パンジャブ州はパンジャビ語、バルチスタン州はバルチ語、北西辺境州はパシュト語です。でもパキスタンの母国語はウルドゥー語ですから、違う州の人同士がお互いに話す時はウルドゥー語で話します。

一番南のシンドー州の州都はカラチで、インドから独立した時カラチはパキスタンの首都でした。カラチは経済の町です。東

にインドと接している所がパンジャブ州です。パンジャブ州の州都はラホールで、文化の町です。パンジャブ州は穀倉地帯も多く、世界で一番大きな農業用水のシステムがあります。西にイランと接している所はバルチスタン州です。バルチスタンの州都はクエッタでこの地方はほとんど砂漠です。北西に北西辺境州があり、州都はペシャーワルです。中央アジアからカイパル峠を越えてくると一番大きな町がペシャーワルです。

今パキスタンの首都はイスラマバードで1958年にカラチから移ることが決まりました。その理由は、カラチが一番南にあったため全国支配しにくかったからです。また南の町でとても暑く湿度も高いですが、イスラマバードはそれほど暑くはありません。

またカラチは海岸の町のため外部からの侵入が守れない場所にありました。そのためパキスタンの軍隊の本部の近くにあるイスラマバードに移った方がいいという意見になりました。

またイスラマバードはヒマラヤ山脈の出発点です。世界の有名なカラコルム山脈、ヒンドゥコシ山脈、そしてヒマラヤ山脈の合流点があります。ですから世界の山の高さベスト100の中で33座がパキスタンにあります。例えばK2(8611m)はパキスタンで一番高い山ですが、世界でも2番目に高い山です。高い山がたくさんあるので、ルビー、サファイア、エメラルド、アクアマリン、トルマリン、ペリドット、トパーズ、ガーネットなどの原石もたくさん採れます。

パキスタンの北にあるフンザ村は長寿の村で有名です。その理由はミネラルがある水、空気がきれい、野菜と果物をたくさん食べる、ストレスがない、などです。

私はこの間山梨県の三つ峠山にいきました。豊かな自然を見て故郷のパキスタンを思い出しました。それから富士山を目の前に見て、富士山と会話をして帰りました。とても楽しかったです。

私のふるさとパキスタン



アワン リファート(パキスタン)

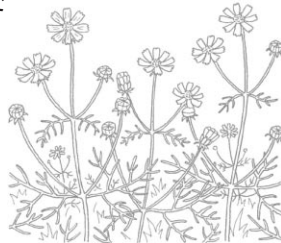
早稲田奉仕園日本語ボランティアの会/新宿区



「ボランティア日本語教室ガイドTOKYO 2007」 冊子発行の作業が進んでいます

冊子発行について、先号(58号)でご協力をお願いしました。2004年版では日本語ボランティア教室161団体を掲載出来ました。2007年版は更に新しい団体を加えて、冊子掲載に関する活動内容を記載して貰う調査表を関係団体に発送しました。皆様のご協力を得て、現在調査表の回収段階に入っています。

また新しく掲載を希望する団体を募集していますので
TNVN事務局へ9月末までにご連絡下さい。



ニュースレターの記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・ご希望も歓迎します。

TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

TNVN スタッフ募集!!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となって現スタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

TNVNへの入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

お詫びと訂正 先号(58号)P5右欄で「八王子にほんごの会」(八王子市)を誤って「八王子日本語の会」と記載しました。お詫びと訂正をさせていただきます。

Column

◆ 喜寿を迎えて

本年4月に、満76歳、数え年で77歳の「喜寿」を迎えました。

これまでの私の人生を振り返ってみますと、その後半では、丁度10年ごとに大きな転機が来たように思われます。

満50歳の年には、入社以来経理畑一筋に働いて来た私が、社長の命令一下180度転身して、新素材「炭素繊維」の国際ビジネスに携わることになりました。

次いで満60歳の年には、炭素繊維事業の欧米パートナーが夫々事業不振となり、紆余曲折の後、私が欧州パートナーとの合弁会社の会長として事業の再建に注力、幸い、その後事業環境の好転に恵まれ収支は改善し、生産規模を拡大、100%子会社として順調に経営することが出来ました。

そして満70歳の年に、通算47年間勤めた会社を退職し、第2の人生を歩み出したのです。当初の目論見では、JICAのシルバ

ーボランティアとなるべく、1年間420時間の日本語教師養成学校に入りました。然しその途上で、「JICAは年齢制限があり、70歳以上はお断り」と言われ愕然と致しました。

かくして、地元の西東京市において、在住外国人に対する日本語ボランティア活動に専念することとなり、今年が早5年目です。週4回のレッスンに多忙な日々を送っている中で、ふと思い悩んだり落ち込んだりしたこともあります。こういう時に必ず心に思い浮かべるのが20年来愛唱してきたサムエル・ウルマンの「青春」という詩です。

「青春とは人生の或る期間ではなく、心の持ち方を言う。」で始まり、

「頭を高く掲げ希望の波をとらえる限り、80歳であろうと人は青春にして已む。」で終わるこの詩が、私の若さの源であり、心の支えであると言えます。

(竹田 仁之介)

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日 / 午後2時～4時
第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

場所

東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車
セントラルプラザビル 10F ロビー

日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフが応えています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えています。

ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス No.4

TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp

URL : http://www.tnvn.jp/

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

新会員紹介

LTC友の会・高円寺(杉並区)
なお「LTC友の会」はLTC友の会・阿佐ヶ谷(杉並区)となりました。

あとむ日本語教室(新宿区)

会員数(2007年8月10日現在)

正会員：79団体 協力会員：38名
賛助会員：4団体

編集 / 岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井 芳野
レイアウト / 鶴田 環恵